http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html　令和3年　7月1日発行

中北.com チュウホク ドット コム

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ
〒407－0024
韮崎市本町4－2－4
TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

2

中北の地域社会（com munity）の心の交流（com munication）をめざします

幼児教育から小学校教育へスムーズな連携を

やまなし幼児教育センター

皆さんは、「やまなし幼児教育センター」をご存じですか。

センターは、昨年10月に山梨大学に開設。全国初の大学構内への設置により、大学ほか、諸機関との連携が取りやすい環境です。幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る取組、幼児教育の更なる質の向上を図る取組を推進することを目的としています。

要領・指針等の改訂により、幼稚園や保育所等それぞれの施設類型において実施してきた教育・保育の内容の整合性が確保されたことで、教員等の資質や教育の質の向上、そして小学校教育へスムーズな接続ができるよう、これまで施設類型ごとで行っていた研修を、幼保一体的に実施するよう新たに企画しました。

設立に携わり、今年度から始まった新採用者研修を立案・企画した、山梨県教育庁 義務教育課　教育指導担当 主幹・指導主事の山下春美先生に伺いました。

教育の土台は幼児期から

幼児期の子どもは、遊びの中で様々な経験をし、学んでいます。小学校入学は「０（ゼロ）スタート」ではないことを意識し、学びの連続性を持って小学校へつなげたいものです。特に小学校の先生にも認知度を高めたいと考えています。

新採用者研修の様子は

約160名が希望した研修を受講しています。現場に出て見えるもの、理論と実践を結びつける機会が必要です。また、同じ立場でつながる場所、仲間、育ち合う環境、支えになる場所として、積極的に活用できる場所にしたいと考えます。

現場の幼稚園教諭は･･･

研修会に臨む「ひよこ先生」がいる、韮崎カトリック白百合幼稚園（今福千恵子園長）を訪ねました。研修２回目、「自然を生かした保育」（オンライン）に、今年度は２名の先生が受講していました。

「１回目の研修で、新採用教員としての心構えや、特性のある子との接し方を学びました。学んだことを現場で生かせることや、研修が仲間との情報交換の場でもあり楽しいです。研修の日は研修に専念できるよう同じクラスの先生方に協力してもらい、安心して受講できる環境もありがたいです。」（山田ひとみ先生）

「昨年度は、コロナの影響で前半の研修が中止でした。今年度特例で受講しています。現場に出て、学校でもっと学んでおけばと思うこともありました。研修の機会がとても貴重です。」（内藤野乃花先生）

「現状に満足せず、見直し、新しい気づきを持つことが大切です。研修内容も、新しい内容や園単位ではできない内容です。研修をとおして、交流し支え合うこと、俯瞰してみること（幼稚園教諭という視点だけでなく、社会の様々な視点を持つこと）で、子どもたちの成長につなげてほしいと思います。」（今福園長）

積極的に参加するための園の体制づくり。そして、研修で得た新しい情報を園全体で共有することで、新しい風を取り入れる柔軟さ。年間10回行われるこの研修で、県内の「ひよこ先生」たちは、子どもたちのために、ますます魅力ある園づくりの一端を担ってくれることでしょう。

初リモート生徒総会

甲斐市立双葉中学校

5月28日(金)午後、双葉中学校（小林大校長）は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、校内オンラインを使って初のリモートによる生徒総会を行いました。

まず、生徒会本部のある理科室から各クラスの音声の確認を行うこと約５分。その後、生徒会役員から発言の際の注意事項が伝えられました。「大きな声で、ゆっくり」がキーワード。総会の中で行われる提案や承認の場面でも、映像や音声が途切れることなくすすめられていました。

いつもはしない事前のリハーサルをした。発表者には「大きな声で、ゆっくり」と指示したことで発言する声がはっきりと聞こえた。今後は、カメラに映る姿を意識して発表ができるよう、また、リモートでできる行事を考えていきたい。（**生徒会役員の３年生**）

体育館の床に座るより、椅子に座るほうが楽だった。発表者の顔がよく見えた。今やっている放送だけの表彰式だと、表彰者の顔が見えないままだったので、これからはリモートもいいと思う。でも、始業式や終業式など区切りの式はみんなで集まりたい。（**３年生**）

クラスからの発言もでき、双方向の場面があったことがよかった。画面に大きく顔が映ることで、発表は恥ずかしいと思う生徒もいるが、それを克服できるとよい発表になるだろう。事前準備は生徒会の先生が行い、クラス担任はテレビとつなぐだけだった。（**クラス担任の先生**）

不安もあったが、リハーサルを丁寧に行ったことがよかった。Google Chromeのmeet機能を学んでゼロからのスタート、有効活用できる新たな一面を知った。次の生徒総会は、一人一台端末を使ってペーパーレスでやりたい。学校全体としては、６月以降各教科で操作に慣れてもらいGIGAびらきへつなぎ、レベルアップしたい。Wi-Ｆi、教室の大型テレビと教師用PCでできたので、通信環境のハード面はとても重要だ。（**生徒会主任の先生**）

双葉中学校では、取材した翌週の5月31日に職員研修を行い、6月以降各教科で活用してもらえるようにと、導入段階に応じた活用を続けています。校内の通信・設備環境のなかで、できることから取り組んでいこうとする積極的な姿勢が伝わってきました。

GIGAスクール構想の実現に向け、県・市町村の支援・協力の下、各学校は，「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」できるＩＣＴの活用に取り組んでいます。総合教育センターの各種研修会や独立行政法人教職員支援機構のオンライン講座、文部科学省HP「GIGA　StuDX推進チーム」による「StuDX Style」にある導入段階・活用シーン別の事例も参考になります。ぜひチェックしてみてください。

Q「GIGA」って何の略？（答えは今号のどこかに）

おしえて！「ヤングケアラー」のこと

気になる言葉を簡単に解説！今回は「ヤングケアラー」

〇法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どもとされている。例えば、家族に代わっての家事や介護や介助や幼いきょうだいの世話、家計を支えるために労働して働けない家族を助けているなど。遅刻や欠席が目立ったり、授業中眠そうにしていたり、学校生活に影響が出ていたりするよ。調査（※）によると、ヤングケアラーと自覚している子どもは1.8%、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがない子どもは84.2%。もちろん、学校だけではなく関係機関と連携しよう。

〇早期発見・ケアラー支援・認知度向上。多くの視点から、児童生徒の丁寧なみとりと対応が必要だね。各地域の教育事務所（スクールソーシャルワーカー）や児童相談所、市町村の子育て支援・福祉窓口、警察署などにも相談できるよ。

※「令和2年度　子ども・子育て支援推進調査研究推進事業」として行われた、文科・厚労両省による全国調査（令和3年3月公表）

未来と連携した学習支援

南アルプス市大明小学校　南ア市観光商工課　エコパ伊奈ヶ湖

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の生物圏保存地域「エコパーク」に登録されている南アルプス市では、市内小学校の児童を対象に生物多様性について学ぶ授業を企画、６月１１日（金）、大明小学校（穴山直樹校長）の４年生42名が、エコパ伊奈ヶ湖で学習しました。

エコパ伊奈ヶ湖に到着すると、大自然が目の前に。山歩きの注意を聞いて地図の確認。「うるしってなに？」「さわるとかぶれるよ」と好奇心旺盛。水筒を肩にかけ、探検バッグを手に、班ごとに約1時間の山歩きを始めました。チェックポイントには自然に関する質問が用意され、子どもたちはその質問を見つけるたびに、立ち止まって相談。「サッカーボールのような木の実」を見つけて、友だちに渡し合う場面も。意見が分かれた時も、あわてず悩んで答えを見つけようとしていました。

ともだちと　いなが湖のまわりを
たんけんできて　たのしかった。
もっと受けたい。

みたことのない
木の実や しょくぶつを
みつけられたよ。

鳥をかんさつするところが
あったらいいな。

地域が支援すると学校はどうなる

引率した教員からは、「当日の専門的なプログラムや準備は、南アルプス市で整えてくれていたので、負担感がなかったです。社会科や理科の教科横断的な視点で学習でき、自分たちの住む地域の魅力を発見できるよい機会となりました。また、来年度行う予定の林間学校につながる活動になりました。」とのこと。

企画した南アルプス市観光商工課では、「エコパークについてさらに認知度を上げ、南アルプスの自然について知ってほしいと考えました。今日の体験を子どもたちが家で話して、家族で南アルプスの自然を味わうきっかけ作りにしてほしいですね。」

「日々忙しい学校のことを知り、プログラムの立案やバスの費用を受け持つことで、学校にはこの体験を授業に組み込んでもらいやすくしました。また、南アルプス市に縁があった先生方が、市外に異動しても、ここでの経験をつないでいってほしいと思います。」と、地域が学校をサポートする形が提案されていました。

「南アルプスユネスコエコパーク学習支援事業」

2014年登録以降、南アルプス市では、南アルプスユネスコエコパーク事業を推進しています。ユネスコエコパークは、自然の成り立ちや歴史文化の理解を深め、自然保護と地域の人々との生活とが両立した持続的な社会の発展を目指しています。

南アルプス市観光商工課では昨年度、市内小学生を対象に学校周辺の自然を学ぶ機会や生物多様性について、エコパ職員の方を招いて講座を開きました。また、伊奈ヶ湖周辺の「生きもの不思議ラリー」など、ユネスコエコパークの自然を体感するプログラムを試行しました。

今年度は、市内のすべての小学校において、それぞれの学校に合わせた学習が実施されます。

この地域で育った子どもたちが、豊かな自然と共存した地域づくりをする。そんな将来の姿が想像できる一日でした。

Q「森のエビフライ」のシェフは？
①リス
②カブトムシ
③ツバメ
（答えはこの紙面のどこかに･･･）

身近な人間関係から見直すと

第1回　中北地区地域教育推進連絡協議会

少人数・短時間で

6月10日(木)北巨摩合同庁舎において、第1回中北地区地域教育推進連絡協議会（会長 増山希世彦 南アルプス市教育委員会教育長）が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、少人数・短時間での実施となり、委員の皆さまには、開催直前で参加をご遠慮いただいた方も多く、心苦しい限りでした。

当日は、報告事項と今年度の計画についての資料説明を行い、研修会を主にした内容となりました。

研修会

家族・職場などの身近な人間関係について見直そう
～ドラマ・映画の心理学的分析から自他の尊厳・価値の尊重について考える～

山梨大学大学院教育学研究科　東海林 麗香 氏

○人権教育　重点領域は「青少年」

SDGｓの土台にも人権教育が据えられており、人権を抜きにしてその目標を達成することは困難。
国民の意識や社会情勢の大きな変化、
「あらゆる他者を価値ある存在として尊重する」（改訂された学習指導要領の前文の記述）や
学校の働き方改革、相次ぐ個別的な人権課題に関する立法措置
↓
学校や人権を取り巻く情勢は変化している。

「人権教育の指導方法等のあり方について［第三次とりまとめ］（平成20年3月）」策定後の第4フェーズ（2020-2024）の現在、重点領域である青少年のための人権教育の適切な方法論を挙げる。

ピアラーニング　ピア＝仲間　仲間どおしでいかに学び合えるか。
できれば成人の監督者なしに青少年がよく集まる安全な場所で、情緒的につながり、対話及び理解が生まれるように。

多様で魅力的な教育方法及び環境（スポーツ、映画、芸術、文化、ゲーム　ストーリーテリング、劇及びロールプレイングなど）
あらゆる背景を持つ学習者を共同作業に引き込むことができる。

○自他の尊厳・価値の尊重について考える

いくつかの用語から、ドラマや映画の人間関係を考えてみる。

カテゴリー化→多様性の減少　『ホテル・ルワンダ』（2004）『ルワンダの涙』（2005）
多数派への同調→多数派とは違う他者の存在
沈黙のらせん→自分の意見は社会で支配的？
IP（identified patient）→家族システムの構造上の問題としてとらえる
『レイチェルの結婚』（2008）
円環的因果律→どうして？がめぐる
境界→家族や夫婦、親子を区切る隠れたルール　『そして父になる』（2013）
ナラティブ（物語）→自身や世界を意味づけるもの　『下町ロケット』（2011）

講演の中で出てきた様々な用語についての知識があると、
「私、安易にカテゴリー化していた！」
「円環的因果律で考えてみるとどうなるかな･･･」などと、
環境や関係の見直しができるのでは。
それが、自他の尊厳・価値の尊重につながると考えている。

◇参加者の感想

「映画やドラマからアプローチをする話は興味が持てた。」
「これまでと違った視点で人間の心を学べた。今度また、本日の内容を更に掘り下げた話を聞きたい。」
「研修で出てきた映画を、今日挙がった視点でいくつか見てみようと思った。」
「自分の意見を調整し、多数派に同調してしまう･･･。私の長い間の課題でした。先生のお話を聞いて勇気をもらいました。」

A：GIGA = Global and Innovation Gataway for All